



渡邊良夫は明治38（1905）年～昭和39（1964）年、黒川村生まれ。大阪商科大学高等学部（現・大阪市立大学）卒業。

吉田茂総理大臣の秘書官を務め、昭和22年に衆議院議員となります。昭和34年には岸内閣のもとで厚生大臣になりました。

胎内市とのつながりは、渡邊家が江戸時代に黒川地域を治めた黒川藩（柳沢家）の筆頭家老職を務めた家柄であったことです。

故郷である黒川村にはしばしば訪れ、厚生大臣に就任した際にも黒川村役場、黒川中学校などを訪れ、郷土の人々から盛大な歓迎を受けました。

「先憂後楽」（常に民に先立って、国のことを心配し、民が楽しんだ後に自分が楽しむこと）を政治信条として、郷土の振興に尽くし、黒川村の基礎固めにご尽力いただきましたが、昭和39年に志半ばにして逝去されました。郷土の方々はこの知らせにととても悲しんだといえます。

渡邊良夫の後を継いだ次男の渡邊肇氏、その後引き継いだのが肇氏の弟である渡邊紘三氏。戦後半世紀近く旧新潟2区（現在の新潟3区）の地盤を引き継いできた渡邊家でした。

昭和39年に、黒川村の第1号名誉村民となり、昭和40年には黒川の村づくりに尽力された先生の遺徳をしのんで、胎内に胸像が建立されました。碑文（裏面）には業績と偉業を讃えた文が記されています。